

イノベーションに向けた外部知識の吸収と組織内知識伝達の連鎖

報告要旨

イノベーションを起こすためには、組織外から新しい知識を取り込み、それを組織内の既存の知識と共に活用することが重要であると言われてきた。組織外から知識を吸収し、それを組織内の他者に広める役割を担う人はゲートキーパーと呼ばれるが、最近の欧米企業を対象とした研究では、ネットワーク分析やインタビュー調査等の結果として、組織の外部からの知識の吸収（第一ステップ）と、吸収した知識の組織内への普及（第二ステップ）の分業が観察されている。しかし、各ステップの実行を促進する要因と分業を引き起こす要因について、詳細な数量的な分析は行われていない。そこで本論文では、まず、日本の多国籍企業 3 社の研究開発者の個票データを使って、企業別に各ステップを実行している人の特徴を分析した。その結果、外部知識吸収の決定要因と職場内伝達の決定要因が見出され、それらの間の共通性は、企業によって、また、知識源や知識の種類によって異なることが明らかになった。次に、外部知識の吸収と組織内知識伝達の連鎖を起こす条件を分析した結果、業務特性がこれに関与し、特定のマネジメントやインセンティブ要因が連鎖を実現するために有効であることが見出された。